

ハートケア通信

2026年8月号

発行：2026年8月1日 No. 275
 ハートケアグループ
 〒583-0021 大阪府藤井寺市御舟町1-63
 藤井寺オフィスビル
 編集：ハートケア通信編集委員
 TEL 072-931-2355
 FAX 072-931-6620



リハビリプラザ深野 チャリティ活動



今月の特集

リハビリプラザ深野 チャリティ活動への挑戦！～ご利用者の想いを形に～

ハートケアグループ

快適をご利用者に 安心をご家族に since1988

(株) ハートケアホールディングス
 (株) 大阪ホームケアサービス
 (株) メディケア・リハビリ
 (株) 青蓮荘
 (株) マイオセラピー研究所
 NPO法人 ケア・ユニゾン



https://www.medi-care.co.jp ハートケアグループ
ホームページ

- ◆ 介護保険ご利用者総数：5062名 (2026年7月1日現在)
 【ケアプラン契約数】777名 【訪問介護事業】472名
 【通所介護事業】1477名 【訪問看護事業】1887名
 【福祉用具レンタル事業】449名
 ◆ 介護保険外ご利用者総数：1592名
 【訪問看護事業(医療)】1123名
 【訪問介護事業(障害者総合支援)】37名
 【個人契約ヘルパー】3名 【有料老人ホーム】428名
 ◆ 住宅改修・福祉用具購入(介護保険内外含む)：8件
 ◆ 障がい児通所支援事業：451名

※上記の数は複数のサービスを利用される方の重複を含みます

◇ ハートケアグループ 職員数：965名

ご利用者虐待防止相談窓口 TEL：072-931-7735 担当：井口

～災害時に備えて～

有料老人ホームへの ポータブル電源 ソーラーパネルの導入

ハートケアグループでは、日頃から自然災害時においても利用者並びに職員の命を守る取り組みを進めています。

今年2月には、災害時の停電への備えとして、有料老人ホームの各営業所にポータブル電源(大型蓄電池)とポータブルソーラーパネルを導入しました。



ポータブル電源

ソーラーパネル

ポータブル電源は、特に夏場の停電を想定し、ご入居者の熱中症リスクを少しでも軽減できるよう主に冷蔵庫への電源として使用します。

冷蔵庫(冷凍庫)で日頃から準備している保冷剤や氷、冷たい飲み物など、ご入居者が夏の暑さをしのげる物を継続的に供給できることで、「熱中症に備えられるように…」と導入を進めました。

各営業所では、緊急時、すぐに取り出せるように台車に乗せて(浸水にも考慮)室内倉庫で保管し、年2回の消防訓練時、および年1回の災害訓練時にも操作や動作確認を行います。

自然災害が増える中、今後も災害から利用者並びに職員の命を守れるよう、継続して様々な対策に取り組んでいきます。

災害対策委員会

有料老人ホーム 空室状況

(2026年7月現在)

青蓮荘	△ ケアホーム藤井寺	△ ケアホーム長吉	△
コンフォート門真	△ ケアホーム寝屋川	満 ケアホーム加美	△
コンフォート大東	○ ケアホーム寝屋川宝町	○ ケアホーム俊徳道	△
ケアホーム伊賀	△ ※空室情報は変動することがあります。		

入居相談 お問い合わせ窓口 ☎ 0120-974-115 (平日9時～18時)



毎年「今年の夏は暑い」と感じる日が続きますが、皆さま体調は崩されていないでしょうか。水分補給や栄養をしっかりとることは、健康を維持するうえでとても大切です。

ところで、日々の生活の中で、「生活の質(QOL)」について考えたことはありますか?

生活の質とは、自分らしく満足感を持って生活できているかどうか重要な指標になります。そこには、「生きがい」や「満足度」「達成感」なども含まれます。

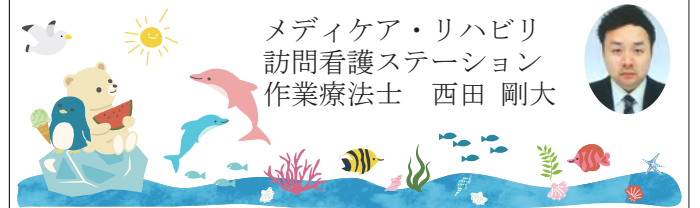
例えば、「友人と喫茶店で会話を楽しむ」「家族と旅行に行く」など、生活の過ごし方は人それぞれ異なります。

では、生活の質を高めるには何が大切なのでしょう。その一つが「目標を持つこと」です。

ただし、目標は具体的であることが重要です。「歩けるようになりたい」だけでなく、「買い物に行くために歩けるようになりたい」と具体化することで取り組む意欲も前向きになります。

目標を達成することは、健康の維持・増進にも繋がります。健康に過ごすために、生活の中に「目標を持つこと」を意識してみてはいかがでしょうか。

私たちは、地域で生活される皆さまが「快適に」「安心して」過ごせるよう、リハビリテーションを提供しています。



メディケア・リハビリ
訪問看護ステーション
作業療法士 西田 剛大

デイサービス 空室状況

(2026年7月現在)

リハビリプラザ桜ヶ丘	○	リハビリプラザ小山	○	リハビリプラザ深野	○
リハビリプラザ羽曳野	○	リハビリプラザ守口	○	リハビリプラザ東大阪	○
リハビリプラザ松原	○	リハビリプラザ高槻	○	リハビリプラザなでしこ	○

※曜日によって空室状況は異なります。

各デイサービスまでお問い合わせ下さい。

デイサービスホームページ

※空室状況は変動することがありますので、詳しくはお問合せ下さい。



ご利用者からの喜びの声

取材時には、ご利用者からたくさん嬉しい声を伺いました。

A様(96歳)は、「これまで手芸はしたことがなかったけれど、デイで制作する機会ができて本当に楽しい。ここにきて良かったです」と話してくださいました。

また、ケアマネジャーの勧めで利用を始めた手芸が得意なM様は、「手芸クラブがとても楽しくて、いつも時間があつという間。妹もこのデイが良いと利用を始め、一緒に手芸ができて嬉しいです」と笑顔で話してくださいました。

さらに、多くのご利用者から「ここはスタッフもご利用

者もいい人ばかりで、本当に楽しい」という声も聞かれました。今回のチャリティ活動も、こうした温かな雰囲気の中からこそ生まれた取り組みなのだと感じました。

ご利用者の「できる」を支える取り組みへ

「人は、人のためなら力を発揮できる。ご利用者には、まだまだできることがたくさんある。」そう話す阪上営業所長は、一人ひとりの力を引き出し、活躍できる場づくりを大切にしています。誰かのために何かをする経験は、人の心を豊かにし、きつとご利用者の生きがいや喜びに繋がると...

また、作品を作る人だけでなく、「素敵だね」と声をかける人も、この活動を支える大切な存在です。一人ひとりの役割や想い、その存在すべてがチャリティ活動を支えています。

ご利用者の優しさ、それを支えるスタッフの熱意から生まれたこの取り組みが、多くの人の役に立つとともに、ご利用者自身の喜びや生きがいにつながり、これからも末永く続いてほしいと感じました。

リハビリプラザ深野 チャリティ活動への挑戦!~ご利用者の想いを形に~



今月は、デイセンターリハビリプラザ深野(リハビリプラザ)で始まった心温まるチャリティ活動をご紹介します。

リハビリプラザ深野では、毎週火・木曜日の午後に開催している手芸クラブで、ご利用者が楽しみながら素敵な作品づくりに取り組みれています。そんな中、「この作品をチャリティ活動に活かさないだろうか」というご利用者の一言をきっかけに、新たな取り組みがスタートしました。ご利用者の想いを形にしようと動き出したリハビリプラザ深野で、話を聞きました。



ご利用者の優しい想いから始まったチャリティ活動

手芸クラブで制作される作品は、ご利用者が時間をかけて丁寧に仕上げた、世界に一つだけの作品です。

ある日、「こんなに素敵な作品なら売れるかもしれない」「売り上げを災害で困っている方など、誰かの役に立てたい」という声が上がりました。阪上営業所長が他のご利用者にも相談すると、「ぜひやってみたい!」「まだ社会の役に立てることがある」「家にある材料も持つてくるよ」と、前向きな声が続々と集まったそうです。

「ご利用者の思いやりあふれる気持ちがとても嬉しかったという営業所長。こうして一致団結、皆さんの温かい想いを形にするチャリティ活動が始まりました。」



「カフェゆにゆに」の協力で実現への第一歩

完成した作品は、同じ大東市にある当社の「Café unisun」(カフェゆにゆに)で昨年12月オープンで委託販売をお願いしました。

このカフェでは、福祉作業所などで制作されたハンドメイド作品も販売しており、ご利用者の作品もその仲間入りです。そして売り上げは募金として寄付する予定です。「素敵な作品をたくさんの人に手に取ってもらいたい」「誰かの役に立てたら嬉しい」そんな思いを胸に、ご利用者もスタッフも制作に励みました。

第一弾は「鯉のぼりの壁飾り」

最初に販売したのは、手芸クラブの皆さんがお気に入りの「鯉のぼりの壁飾り」です。工程が多くなる作品ですが、「縫う」「貼る」など、それぞれの得意な作業を担い、手芸クラブ以外のご利用者も協力。完成した作品は百個にもなりました。

そして迎えた納品の日。スタッフとともに3名のご利用者もカフェを訪れ、自分たちの作品が店頭で並ぶ様子をしっかりと見届けられました。「こんな経験ができて良かった」「たくさん売れるといいな」「カフェにも行って楽しかった」と、参加者から喜びの声も。

現在は第二弾として、「いつでも元気に歩けますように」という願いを込めた、草履をモチーフにした壁飾りが店頭で並び、制作も続いています。「誰かの役に立てますように」という思いを込めながら、次の作品づくりにも取り組まれています。



ハートケアのやさしい介護



有料老人ホームご入居者への取り組み

丁寧な声掛けがもたらした、心の変化

ご入居当初は、ご自身の思いを言葉で伝えることが難しく、職員との会話もほとんどありませんでした。そこで私たちは、介助を行う際には一つひとつの動作について丁寧に説明することを徹底しました。また、日頃から「おはようございます」「今日は調子はいかがですか」「ごはんは美味しかったですか」など、積極的に声がけを行い、天気の良い日には「外へ行きませんか」とお誘いしたり、できたことに對して「すごいですね」とお伝えしたりすることを心がけました。このような日々の関わりを積み重ねた結果、現在ではご本人から職員へ話しかけてくださる機会が増え、笑顔も多く見られるようになっていました。

お食事への取り組み: 食べる意欲を引き出す工夫

食事の際、入れ歯を嫌がって外してしまうことがあったため、職員間で「どうすれば美味しく食べていただけるか」を検討しました。食事形態を見直し、入れ歯を使用しなくても安全に食べられるよう工夫すると、ご自身でスプーンを持って食べようとする意欲が芽生え、食事量が安定。ご入居時にみられた床ずれもきれいに改善しました。

ご本人の思いを大切に

チームみんなで取り組んだケア

83歳男性(要介護3)の事例紹介

排泄への取り組み: ベッド上からトイレでの排泄へ

ご入居当初はベッド上で排泄介助を行っていましたが、「手すりを持って立ってみましょう」と声を掛けながら、無理のない範囲で立ち上がる練習をコツコツと続けました。現在は、職員の声掛けに応じてしっかりと立位を保てるようになり、介助を受けながらトイレで排泄ができるまでになりました。

生きがいづくり: 自分らしく過ごせる環境へ

最近では、館内の生きがい活動(レクリエーション)にも積極的に参加されるようになり、他のご入居者との交流も増えています。

担当スタッフより

ご本人の思いに寄り添い、「できること」を少しずつ増やしていくことで、日々の生活の中に自信や意欲が生まれることを、私たちも改めて学ばせていただきました。

私たちは、ご入居者一人ひとりが自由に興味や関心を持ち、自分らしく参加できる環境づくりを大切にしています。これからも、ご本人らしい生活を安心して送っていただけるよう、職員一同、チーム一丸となって心を込めた支援を続けてまいります。

施設運営本部 内藤 志央